

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和8年3月24日（金）15:00～17:00

場 所：国際医療福祉専門学校七尾校 2階会議室

委員名： 谷一 勝信 （七尾市役所 健康福祉部 部長）
津田 博美 （社会福祉法人 七尾市社会福祉協議会 会長）
岩本 潤一 （介護老人福祉施設 千寿苑 社会福祉士）
沖崎 琴 （特別養護老人ホーム あかかみ 理学卒業生）
岩島 誠 （公立能登総合病院 理学卒業生）
沖崎 孝裕 （市立輪島病院 作学卒業生）
皆川 直樹 （津幡町消防署 救命卒業生）
村田 敏子 （自立ホームけいじゅ 介護卒業生）
花田 邦和 （国際医療福祉専門学校七尾校 学校長）
由久保 弘明 （国際医療福祉専門学校七尾校 理学療法学科）
石毛 巖 （国際医療福祉専門学校七尾校 理学療法学科）
玉村 豊和 （国際医療福祉専門学校七尾校 救急救命学科）

議事内容

1. 学校行事および取り組み活動・成果報告
2. 各学科の報告について
3. 学生募集と成果（令和7年度入学見込み者数など）
4. その他

1. 学校行事および取り組み活動・成果報告

<学年歴>

- ① 入学式は全員参列で例年通り実施 4月
- ② 石川県障がい者スポーツ大会にボランティアスタッフとして参加 5月
- ③ 県内の各種専門学校が一同に集まっての球技大会への参加 6月
- ④ 学校祭の実施 10月
- ⑤ 卒業式は全員参列で例年通り実施

なお、講義及び学内における実習系は感染対策を十分に行った状況下で通常通り実施した。また、濃厚接触者対応や大雪などの天候不良時により登校が制限された学生に対してはオンラインでの対応を行い、欠席とならないよう配慮し実施した。

【意見・質問】

震災前と同じ環境に回復しているのか？との質問があり、水回りの環境は大規模損壊のため食堂関連を中心とした設備が復旧できていないと回答した。また、学生寮の修繕は不可欠であり、七尾市内での住居状況を見ても整備が必要との意見を頂いた。

2. 各学科の報告について

【理学療法学科】

① 各学年の在籍者数（4月時点）と進級予定者数（3月時点）／卒業者数について

	在籍者（4月時点）	進級予定者・卒業者（3月時点）
1年生	12名（新入生） →2名退学 ＊基礎学力や社会性が低いことが理由1名 ＊心身上の理由が1名	10名進級
2年生	12名	12名進級
3年生	19名（うち1名復学者）	19名（卒業者）
総数	43名 →41名（うち1名復学者）	22名（1年生・2年生進級） 19名（卒業者）

② 国家試験合格者数（率）と就職状況について

受験者数 19名

合格者数 17名／19名 【89.4%】

就職内定状況 16名／19名 【84.2%】 県内9名、県外7名

＊合格者 17名のうち 16名は就職内定、1名は就活中

＊合格者の就職 100%を支援する方針

臨床における意思決定を必要とする想定問題が多くなっており、今回不合格となった学生達においては、これらの分野の得点率が50%台と低かった。今後は今までの対策に加え、臨床実習において現場で行われている科学的根拠に基づく臨床判断能力を高める教育が必要である。臨床推論を中心とした考えをOutputする環境を学内でいかにして提供し、問題解決能力をアップさせる指導が引き続き必要である。

【意見・質問】

- ・不合格者に対してのフォローについての質問を頂き、科目等履修生として対応していると説明を行った。
- ・引き続き、人間性豊かな人材の育成に努めてほしいとの意見を頂いた。

③ 臨床実習関連

- ・臨床実習指導者会議は昨年度と同様にオンラインによる開催
- ・3年生の総合臨床実習（8週間を2回）は4月～10月の期間に計画通り実施
- ・2年次臨床評価実習（4週間）および1年次臨床見学実習（1週間）は1月～3月の期間に計画通り実施

【救急救命学科】

① 各学年の在籍者数と進級予定者数／卒業者数について

1 年生：在籍者数	8 名
進級予定者数	8 名
2 年生：在籍者数	6 名
進級予定者数	6 名
3 年生：在籍者数	9 名
卒業者数	9 名

② 国家試験自己採点結果による合格見込数と就職内定状況について

受験者数	9 名
合格見込数	9 名／9 名 (100%)
就職内定状況	9 名／9 名 (100%)

＊4 月～7 月にかけて公務員対策講座として外部の東京アカデミーに講師依頼をして実施した。全国統一模試を 4 度実施し現在地の把握、また各々に足りない部分を把握させ、対策することが出来た。ただし、最近の公務員試験の傾向として、筆記試験より人物重視を掲げている市町村も多いことから、一般教養の試験勉強だけではなく、面接や集団討論への対策を行った。また、単なる人柄の良さだけではなく、協調性、ストレス耐性、組織への適性を見られていることから、普段から社会人としてのルールや常識、対人能力の向上を図るために厳しく指導している。近年、若者の新聞やニュース離れから、一般常識や時事に対しても教育している。そして、体力も重要な試験項目であることから、通年で体力錬成の指導も充実させたいと考えている。

＊国家試験対策として今年度は 3 年生と 2 年生とのグループ学習を取り入れて実施した。3 年生は学習した内容を 2 年生にアウトプットすることにより知識の定着を目指し、2 年生は早期から国家試験を意識させることが目的である。その他、集中講義の実施、基礎知識を確認するための試験、また個人の苦手な部分を把握し、その対策資料を作成し、追い込み資料として配付し対応した。

結果、今年度も全生徒が合格ラインへの到達が昨年同様に早く、余裕を持った対策が功を奏したと考える。次年度は、更に早期から対策を施した生徒らが最終学年となるので、より早い段階で合格ラインへ到達することを期待している。

＊例年、姉妹校 3 校合同による模擬試験を 2 回実施していたが、今年度からは系列校の希望もあって 4 回実施した。3 校の最終学年が試験を受け、3 校の生徒内の順位および現在の状況を把握することができる。その都度、学習指導の指標となるため、今後も継続して実施していく予定である。(今年度は、4 度の合同模試を実施したところ、七尾校の平均得点は 3 校中、4 回全てでトップの成績であった。)

また毎年、J E S A (全国救急救命士教育施設協議会) 主催の全国統一模試を

実施している。同じ時期に国家試験を受験する各校の最終学年が受験する模擬試験であり、結果を共有することで各々の現在地の確認、そして今後の対策をすることが出来る有意義な模擬試験である。（今年度は、全国の加盟校の中で受験した40校（大学、短大、専門学校）の中で七尾校の平均得点は全国3位の成績であった。）

今後は、各時期の到達状況を客観的に比較できる環境を整えることで、学生にとって良い刺激や目標設定の手助けをしていきたい。

③ 主な校外活動内容

- ・能登半島地震ボランティアとして参加
- ・J E S A主催西日本学生選手権に出場
- ・3次救急病院におけるトリアージ訓練に参加
- ・解剖実習への参加
- ・無人航空機操縦免許（ドローン）、潜水土免許の取得

能登半島地震発災後、地域の復興活動は現在も続いており、希望学生による地域ボランティア活動を継続している。また発災直後から国士舘大学のボランティア団体が七尾市内で何度も活動されており、今年度も本学の学生が、そのボランティアに参加させてもらった。国士舘大学の学生とボランティアを経験することにより、災害現場での貴重な経験及び活動を実施することができ、また学生交流にもつながっている。

例年参加していた七尾市の市民マラソン行事が今年度も中止となった。救急関連行事は、学生にとって貴重な現場経験となるとともに同時にモチベーションアップにも繋がる重要な役割を担っているだけに残念であった。

毎年、姉妹校である千葉校と合同で解剖実習に参加している。解剖実習を受け入れる学校が搾られている中、本物の御献体を見学することにより、人間の形態と機能について学びを深めることが出来る貴重な実習である。

また、本学は救急救命士国家試験+αを目指しており、複数の国家資格取得も目指している。近年、世間の認知度及び需要が高まりつつある無人航空機操縦免許（ドローン）、潜水土免許を取得する学生が増えつつある。両資格とも、消防へ就職後も活躍が期待できる資格であり、公務員試験においても目を引く資格となっている可能性が高いと考える。

④ 臨地実習関連 *実施内容は以下の通り

消防系	1年次	救急車同乗見学実習	令和7年12月2日～12月5日	平日4日間実施 (七尾は当直)
	2年次	救急車同乗体験実習	令和7年12月2日～12月5日	平日4日間実施 (七尾は当直)
病院	2年次	臨床見学実習	令和7年9月29日～10月10日	平日10日間実施

	3年次	臨床体験実習	令和7年5月19日～6月6日	平日15日間実施
--	-----	--------	----------------	----------

【意見・質問】

- ・病院救命士の内容について知ることができて良かった。認知度がまだ低いと思うため、今後はアピールの仕方を工夫したほうがよいとの意見を頂いた。
- ・合格率および就職率が高いため、地元および在学生の母校に情報をつたえることが必要であるとの意見を頂いた。
- ・垂れ幕が非常に宣伝効果として良いと意見を頂いた。
- ・夏に実施している学びフェスタのような小学生も視野に入れた広報活動を積極的に行う必要性があるとの意見を頂いた。

3. 学生募集と成果（令和8年度入学見込み者数など）

☆学生募集と成果

【入学見込み者数】

2026 年度入学者見込み数 (PT : 10 名 EMT : 17 名 計 : 27 名)

2025 年度入学者数 (PT : 12 名 EMT : 8 名 計 : 20 名)

【高校訪問】

計 320 回訪問

石川県・富山県・福井県のほぼすべての高校

岐阜県・長野県・新潟県の偏差値帯低中間層、比較的石川県寄り、入学実績がある高校

3～4 月と 7～8 月に訪問し、新年度挨拶、進路動向、オープンキャンパスへの促し、新入生のお礼、卒業生の進路報告を行った。

その他資料請求等があった場合には教員との電話での面談も実施
出願時にも訪問を行う

【ポータルサイト】

リクルート、マイナビのサイトにて学校紹介ページ、資料請求・オープンキャンパス導線、先輩紹介ページを掲載

【ガイダンス】

計 50 件参加（同日に学年別ガイダンスも含む）

ライセンスアカデミー、さんぼう、キッズコーポレーション、マイナビ、imagine の 5 社での開催のガイダンスに参加

総参加者数 231 名 うち来校者数 20 名

石川・富山・福井の高校ガイダンス・会場ガイダンスに参加

石川県 35 件 富山県 12 件 福井 3 件

その他、高校での進路指導講座・面接指導・模擬面接官などの依頼が 6 件

【オープンキャンパス】 令和 7 年度 参加者数：77 名

【SNS】

各学科であった Instagram のアカウントを七尾校の物として 1 つに統合

TikTok の運用開始

投稿数 Instagram（統合前） 理学療法学科 37 件

救急救命学科 37 件

その他タイムライン、ショート動画

（統合後）12 件

TikTok 48 件

七尾校 Facebook37 件 ※理学の Instagram は Facebook と連動している

公式 LINE の運用開始 登録者数 70 名

オープンキャンパスやガイダンス等で接触した学生を中心に登録を促し、販促物でも QR コード入れた。個別質問や案内告知など幅広く活用ができ、アクションの在った学生の確実なつなぎ止めに効果が見られた

【雑誌掲載】

日本医療企画 医療・介護・栄養のお仕事まるわかり事典 2025

総資料請求数 1098 件

【意見・質問】

- ・地震の影響で能登地区特に奥能登方面の高校の定員割れが問題となっている。これらのことを踏まえても能登地区の入学者数が少ないのも納得したとの意見があった。
- ・呉西地区と七尾を行き来する公共機関が無いことも影響している。
- ・七尾市広報だよりも情報を掲載した方が良いとの意見を頂いた。
- ・仮設住宅に住んでいる方も多くおられるため、訪問型もしくは学校に招いてのイベント企画も取り組んでみてはとの意見を頂いた。
- ・ガイダンスはマストであるため、今後も継続していくことが重要との意見を頂いた。
- ・県内外への広報活動の実際を知れてよかった。高校生の認知度をいかに上げるかが課題であると思う。
- ・SNS 戦略をもっと駆使して広報活動を行い、入学者数の増加につなげてほしい。
- ・七尾市が取り組んでいる総合事業へ学生とともに参加することも必要であるとの意見を頂いた。

- ・七尾市の広報窓口の一つとして記者クラブがあり、学校行事等の情報を送ると各メディアに情報を伝えてくれるとのこと。そこから取材があるかはそのメディアの判断となる。

<七尾市より>

令和8年度より七尾市への人流を促す取り組みとして、市内で学ぶ学生への支援として①居住支援金（市内に居住する場合）10,000円／月、②通学支援（市外25km以上から通学する場合）3,000円／月を実施するとの案内があった。

4. 自己点検・評価書の総評
特段意見・質問なし

以上